平谷 あんな

Anna Hiratani

試合中、ベンチでスコアブックを付ける平谷。気持ちは常に選手と一緒にある

松阪商業高校 野球部マネージャー

声と笑顔で支え、共に戦う

試合前には、控え選手たちと協力して横断幕を設置する

文◉由本 裕貴

伝統として、夏の県大会は地元松阪市の試合会場である県営松阪野球場で球場アナウンスを務める。3年生の竹谷梨緒と、平谷あんなは「甲子園の球場アナウンスを参考にして、イントネーションや語尾などはっきりと、(観衆や選手が)聞きとりやすいように心掛けています。大きく口を動かしたり、声やトーン、文の区切り方で聞こえ方に違いがあることを学びました」と話す。

日々の活動内容としては、試合でのスコアラーはもちろん、球場の補助など試合に関わることのほか、接待、ドリンク作り、タイム測定、ノックの補助、草抜きなどさまざまだ。春の県大会では、試合前にベンチ外選手と共にスタンドに横断幕を付けたり、試合中はデジタルカメラで選手たちの姿を撮影したりと、大忙し。熱心なサポートも実り、チームはベスト4まで勝ち進んで、夏の県大会のシード権を獲得した。

期待に応えてくれる選手たちの勇姿が、竹谷と平谷らマネージャーの原動力となっている。「選手たちの『ありがとう』の一言や、笑顔をやりがいとしています。特に、試合中に好プレーが出たときの選手の笑顔が最高に嬉しいです」と明かす。

地元球場でのアナウンス 選手の笑顔がやりがい

今春の第93回選抜高校野球大会「21世紀枠」の三重県推薦校に選ばれた松阪商業。昨年秋の県大会で準優勝し、東海大会では初戦で敗れたが、近年の試合成績が良好だったことなどが評価された。東海地区の推薦枠から漏れ、春の甲子園出場はならなかったが、松阪商業野球部が日の目を浴びたのには、マネージャーの活躍もあった。

まもなく迎える、最後の夏。昨年からのコロナ禍を経験し、野球ができるありがたみも味わった。マネージャーだからといって、決して「裏方」でいるつもりはない。ベンチでもスタンドでも、選手たちと共に戦い、勝利を目指す。

「昨年の先輩方のいろいろな想いを胸に、甲子園出場を目標として夏の大会を勝ち進んでほしいです。いままで以上に視野を広げ、プレーがしやすい環境を作っていきたいです」

持ち味の明るさでチームを支えるマネージャーの平谷(右)と竹谷

「試合中に好プレーが出たときの 選手の笑顔が最高に嬉しいです」

竹谷 梨緒

Rio Taketani

スタンドからカメラで選手たちの勇姿を写真に撮り収める竹谷。その一瞬一瞬を逃さない